RI·腫瘍病態学講座

【研究プロジェクト名および概要】

- I. 腫瘍内不均一性に着目した悪性腫瘍の病態解明に関する研究
- Ⅱ. 悪性腫瘍の新規モデルマウス樹立に関する研究
- Ⅲ. Radioisotope(RI)を用いた診断・治療開発に関する研究
- Ⅳ. 放射線・RI の医学教育・安全管理に関する研究

RI・腫瘍病態学では、モデルマウスを用いた悪性腫瘍・難治性疾患の病態解明に関する研究を行っています。これまで、ヒトの細胞を超免疫不全マウスに移植することで、Patient-derived xenograft(PDX)モデルを含めたモデルマウスを作製し、液性因子や転写因子の制御に焦点を当てた悪性腫瘍の病態解明及び治療法の開発を行ってきました(Cancer Sci 2012, Cancer Lett 2013, Int J Hematol 2013, Eur J Cancer 2014, J Cancer Res Clin Oncol 2015, Leuk Res 2016, Oncogene 2017)。また、時間的・空間的に遺伝子を操作した遺伝子改変マウスを用いて、がん抑制に関わるシグナル伝達経路の機能解析を行ってきました(Oncogene 2017, Development 2018)。さらに、新たな白血病モデルマウスや患者検体を用いて、造血幹細胞レベルでの病態解析研究に参画して参りました(Cancer Cell 2021, Nat med 2022)。

生命資源研究・支援センターの業務である放射線・RIを用いた研究支援を行うとともに、放射線・RIを用いた診断・治療法の開発に取り組んでいます(Explor Target Antitumor Ther 2024)。また、アイソトープ総合施設、大江地区・黒髪地区アイソトープ施設とも、密接に連携し、放射線・RIにおける医学・薬学・工学・理学教育を推進し、次世代を担う研究者・技術者の育成に努めています。さらに、学内の放射線安全管理を行うとともに、安全管理の手順や注意点について、広く社会に啓発活動を行い、放射線の安全利用を推進して参ります。

准教授 後藤 裕樹 hgoto20@kumamoto-u.ac.jp 研究の統括 事務補佐員 福島 久美子 Ⅲ, Ⅳ 技術補佐員 松浦 公美 Ⅰ, Ⅱ 共同研究者(技術専門職員) 白石 善興 Ⅲ, Ⅳ 共同研究者(大学院博士課程) 上田 裕二郎 Ⅰ, Ⅱ

【連絡先】 電話: 096-373-6509 Fax: 096-373-6510

【ホームページ】

http://irda.kuma-u.jp/divisions/radioisotope_and_tumor_pathobiology/radioisotope_and_tumor_pathobiology.html

【特殊技術・特殊装置】

- 1. 細胞増殖・細胞死・細胞周期の解析
- 2. 超免疫不全マウスを用いた in vivo解析
- 3. 血液細胞の分化誘導
- 4. 代謝・活性酸素の分析

- 5. テトラサイクリン等の薬剤を用いた遺伝子制御
- 6. 次世代シークエンサーを用いた解析
- 7. 免疫組織染色
- 8. RI を用いた細胞研究

【英文総説(査読有)】

1. Goto H, Shiraishi Y, Okada S.

Recent preclinical and clinical advances in radioimmunotherapy for non-Hodgkin's lymphoma.

Explor Target Antitumor Ther. 5: 208-224 (2024)

https://doi.org/10.37349/etat.2024.00213

【英文国際会議論文(査読有)】

1. <u>Goto H</u>, Todorova T, Schwenger E, Taylor S, Chen S, Narayanagari SR, Sun D, Bohorquez O, Kumari R, Sundaravel S, Tatsumi G, Ueda K, Edelmann W, Abdel-Wahab O, Shastri A, Verma A, Steidl U. Intercepting progression to leukemia in a novel RUNX1-FPD mouse model.

Exp Hematol. 124: S54 (2023)

https://doi.org/10.1016/j.exphem.2023.06.115